

## 第2回伊万里市立学校規模適正化協議会会議録

1 日 時 令和元年10月21日(月)

開会 14時00分

閉会 15時30分

2 場 所 大会議室

3 出 席 24名

4 欠 席 3名

No.	氏 名	出席	No.	氏 名	出席	No.	氏 名	出席
1	上野 景三	○	10	山口 知子	○	19	清水 正彰	○
2	墨谷 誠一	○	11	小杉 道久	○	20	黒川 敦子	○
3	坂本 浩幸	○	12	遠 信子	○	21	岩野 一	○
4	坂本 和人	○	13	掛園 真樹	欠	22	岩永 孝雄	○
5	前田 勉	○	14	石井 司朗	○	23	森 俊介	○
6	松本 啓二	○	15	松尾 哲司	○	24	川内 幸人	欠
7	松尾 千穂	○	16	田中 啓三	○	25	松尾 正司	○
8	西 靖幸	○	17	福地 佳野	○	26	西田 武利	○
9	田中 真紀	○	18	口石 さおり	欠	27	嶋川 幸司	○

議事録署名者 11番 小杉 道久

9番 田中 真紀

## 5 事務局

職名	氏名	職名	氏名
教育部長	中野 大成	教育副部長	梶原 貴英
教育施設課長	吉永 大輔	学校教育課長	中尾 聡彦
指導主事	古賀 美和	学校教育係長	内山 直樹

## 6 その他出席者

政策経営部企画政策課企画1係長 西尾 義久

## 7 協議事項

(1)	前回の協議会の内容確認
(2)	「滝野校の教育を考える会」の報告
(3)	「学校統廃合の在り方について」 佐賀大学教育学部学校教育学研究科 教授 上野 景三
(4)	諮問事項についての協議 ①付帯事項となっている、滝野中学校と国見中学校の統合問題について ②今後の伊万里市立学校の在り方について

## 8 その他

次回開催予定 令和2年1月24日(金) 14時00分～

<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>みなさんこんにちは。 定刻になりましたので、第2回目の伊万里市立学校規模適正化協議会を開催したいと思います。よろしくお願いいたします。 それでは、協議会会長の挨拶ということで、前回、会長を引き受けていただきました小杉様、よろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>みなさんこんにちは。 本日は大変お忙しい中に、第2回の協議会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。 第1回の協議会を7月29日に開催したところですが、その後、各団体の中で話題に上がったことだろうと思います。 特に、滝野地区では、9月4日と10月16日に「滝野校の教育を考える会」が開催されまして、保護者や児童生徒、地域の方々の意見をアンケートとして集約をされ、ご協議いただいたと聞いております。 そうした様々な意見を、本日の協議会にてご報告いただきたいと思います。 本日は、前回に引き続きまして、諮問事項についての継続審議をお願いしたいと思いますので、委員のみなさんの積極的なご意見をいただいて、本日の協議会が有意義なものとなりますよう、よろしくお願いいたします。 それでは、議事の進行については、本日の資料に即して進めさせていただきたいと思います。 3の議事録と議事録署名者の確認ということですが、第1回の議事録につきましては、既に委員さんのもとに配布されておりますので、後で目を通していただければと思っております。 議事録署名については、前回、会長、副会長で署名を行ったところです。 毎回みなさんの中から選出をして、議事録署名をしていただくというのも大変ですので、今後とも会長、副会長の方で議事録署名をさせていただきたいと思っております。それでよろしいでしょうか。 (賛同する声)</p>

	<p>それではさっそく、協議ということで（１）から（４）まであるようですので、（１）前回の協議会の内容確認ということになっております。</p> <p>ここで改めて、諮問事項の確認をしたいと思います。</p> <p>一つは、滝野中学校、国見中学校を統合することについて。</p> <p>二つ目が、今後の伊万里市立学校の在り方について諮問がなされているところです。</p> <p>お互いに確認をしたいと思いますところですので。</p> <p>それでは事務局より、前回の協議会の内容確認をお願いします。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>前回の協議の概要を私の方から説明させていただきます。</p> <p>前回は、協議会の設置要綱、運営要領について確認をし、政策経営部から今後の本市の行財政運営についての説明を受けました。</p> <p>協議の中では、滝野中学校と国見中学校の統合問題について、様々な視点からご意見をいただきました。</p> <p>これからを生きる子どもたちに身に付けさせたいコミュニケーション能力を考えた時に、一定の学校規模が必要ではないかという意見や、一方では、通学保障の問題や地域が廃れていくという心配などが寄せられました。</p> <p>また、本市全体を考えた時に、例えば、特別支援学級の増加に伴い、教室数が不足する学校もあること、また、宅地造成に伴い、児童数が増加する学校もある。そうすると、統合ばかりではなく、分離も視野に考えなければならぬ学校も出てくるのではないかと。併せて、校舎の老朽化の問題もあり、全市的な視点で学校の統廃合を考えなければならぬのではないかと。そういう議論がなされました。</p> <p>以上報告いたします。</p>
<p>会長</p>	<p>前回の内容について報告がありましたけれども、何かご意見等がありましたらお願いしたいと思います。</p> <p>(意見なし)</p> <p>よろしいでしょうか。それでは次に進みたいと思います。</p> <p>(２)の「滝野校の教育を考える会」の報告ということで、先ほどもお話をしたところですが、協議会での協議内容やアンケート結果などに</p>

	<p>ついて、滝野校の坂本校長よりご報告をお願いします。</p>
坂本和人委員	<p>みなさんこんにちは。</p> <p>滝野校の校長をしております坂本でございます。</p> <p>第1回の規模適正化協議会を受けて、9月4日水曜日に第1回を、10月16日水曜日に第2回「滝野校の教育を考える会」を開催しました。</p> <p>第1回では、滝野の諸課題などを話した後、地域の意向を調べるために、9月にアンケートを実施することを確認いたしました。</p> <p>約3週間の期間でアンケートを実施したところです。</p> <p>第2回、ここではアンケートの結果の報告と、それをもとに滝野校の今後について、委員のみなさんと話し合いを行ったところです。</p> <p>アンケートの回答は、お手元の資料をご覧ください。</p> <p>保護者9世帯、児童生徒、小学校5年生から中学校3年生までの9名分、これらはいずれも100パーセント回答です。</p> <p>あと、地域住民の回答は71名分、150名分を配ったのですが、半数ほど回答いただいたところです。</p> <p>概要については、端的に言いますと、保護者の意見は半分に分かれました。</p> <p>存続 - 「学習や生活の場面で教師の目が届く」、「通学距離の問題がある」、「小集団であれば出番が多い」、「学校がなくなれば地域の連帯感が薄れる」などが3名。</p> <p>反対に統合は、「人間関係の幅が広がり社会性が身に付く」という意見が4名、「多くの児童生徒の中で競争心が養われる」が3名ということで、半分に分かれた次第です。</p> <p>地域の意見というのは、若干「存続」の方が多くございました。</p> <p>存続の大きな理由として、「通学距離の問題」、「学校がなくなれば地域の連帯感が薄れる」、「大きい学校では人間関係に悩む子が出てくる」などの意見がありました。特に、意見としては「統合すれば離村家庭も多くなり、村の過疎化の深刻化が危惧される」、「小中一貫校滝野校としてやっと落ち着いてきて、安心できる状態になった」、「せめて小学校だけでも残してほしい」といった意見がありました。</p>

逆に統合は、「これまで統合に反対してきたけどもういいだろう」、「友達を選べない」、「部活動を選べない、特に中学校においては大人数の関わりが必要」、「小学校は東山代小学校の分校という位置付けにすればいいのではないか」という意見が出されたようです。

子どもたちについては、本校に通学をしておりますので、6人が「存続」に賛成、2人が「友達が増えて楽しくなるので統合」という意見が出されたということです。

詳しくはお手元の資料をご覧くださいと思います。

第2回の「滝野校の教育を考える会」の報告でございますが、評議員さんへのアンケートについて、「地域の回答が予想よりも少なかった」、「統合問題にあまり関心がないのではないか」という意見がありました。

全体的な意見としては、「子どもがいないため、学校との関係が希薄になった」、「統合はやむを得ない」、「学校が無くなると過疎化が進むという考えもあるが、現実、学校があるにも関わらず過疎化は進んでいる」、「若者は滝野を離れている現実がある」などの意見が出されました。

「中学校は統合しても、小学校の間だけでも滝野小に登校させたい」という意見もありました。「小学校だけでは行事が盛り上がらない」、「小学校だけ存続しても保護者の負担は大きい」、「小学校も一緒に統合した方がいい」という意見も出されました。

あと、「通学区域の見直し」という意見も出されました。これは、川内野と（長崎県）松浦市の境界に近い区域にとっては、（松浦市）志佐町に行った方が通学や送り迎え、また雪が降った場合も便利で安全である。

また、日向郷からは、「山代西小学校へ通学した方がはるかに近い」という意見がありました。

「市内の校区外通学や県をまたいでの通学などいろんな選択があってもいいのではないか」という意見も出されて、滝野校がそのまま国見中や東山代小への統合について、少々異論が出されたということです。

あと、要望としては、「統合すれば子どもの送り迎えで保護者や祖父母の負担が増えるので、スクールバスの送迎時間をきちっと決めてほしい」とい

	<p>う声がありました。</p> <p>この「滝野校の教育を考える会」の結論としては、スクールバスの運行など、ある程度の条件を揃えたうえで、統合した方がよいのではないかという形になった次第です。</p> <p>最後に、伊万里市で統合（という意味）がしっかり固まった場合は、地域住民を集めて、しっかり説明を行ってほしいという要望が出されました。</p> <p>この「滝野校の教育を考える会」は、今のところ2回終わっていますが、第3回を1月下旬から2月上旬にかけて行おうと思っています。</p> <p>今回の協議会で出された意見を、次回の教育を考える会で報告できればと思っています次第です。</p> <p>以上で報告を終わります。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>みなさまからご意見等がありましたらお願いします。</p> <p>（意見なし）</p> <p>何か問題等ございましたら、後でも結構ですので、ご意見を述べていただけたら助かると思います。</p> <p>それでは、3番目の講話ということで、「学校統廃合の在り方について」、今回も佐賀大学教授上野景三先生にご出席をいただいておりますので、全国の事例や今後の学校の在り方についてご講話をいただいて、今後の議論を深めてく一助になればと思っております。</p> <p>では先生、よろしく願いいたします。</p>
<p>上野委員</p>	<p>みなさんこんにちは。</p> <p>只今ご紹介いただきました佐賀大学の上野と申します。</p> <p>今日は少しだけお時間をいただきまして、今の学校統廃合の現状などについて、私の知っている範囲でご紹介させていただきたいと思っております。</p> <p>お手元に資料を、スライド4枚の資料をご準備させていただいておりますので、そちらでも、前のスクリーンでもどちらでも結構ですので、ご覧いただきたいと思っております。</p> <p>まず、全国の学校の統廃合の推移でございます。</p>

基準を2000年、2010年、それから一番直近のデータというふうに集めてみました。

項目は市町村数、それから小学校数、中学校数、それから公民館数としております。

調査の時期が少しずれているものもありますので、その下のカッコの中に（調査時期を）入れております。

まず、市町村数ですけれども、これは平成の合併の前ですので、

3,233（市町村）あったものが平成の合併によって、1,719（市町村）まで減って、それからもう一つ減って、現在1,718（市町村）。減少として、減少数が1,515（市町村）となっております。

小学校は、合併前は24,000（校）あったわけですがけれども、合併後、22,000（校）、現在は19,000（校）となっております。

増減は、マイナス4,368校となっております。

小学校は自治体合併によって左右されるというのはあまりなくて、合併前から合併後で2,000校ぐらい減っております。そしてその後も2,000校ぐらい減っております。つまり、合併によって学校が統廃合されたというよりは、合併後に時間をかけて、じわじわと統廃合が進んでいるという現状かと思えます。マイナス4,368（校）ということですので、これは約20年かけての数ですので、毎年200校ずつぐらい全国から小学校がなくなっております。

次の中学校ですけれども、11,209（校）だったものが、合併後は10,000（校）に減り、現在は1万とちょっとに減っております。マイナス987（校）で、約1,000校減っているかと思えます。

これも20年で割ってみますと、大体毎年40から50校ぐらいの中学校が無くなってきております。

それから、公民館もついでに調べて数を入れております。

合併前、これが一番ピーク時だったと思えます、19,000館あったわけですがけれども、合併後には15,000（館）で4,000館ぐらい減っております。公民館の方が市町村合併によって減少した割合が非常に高



くなっております。そして、現在は13,933（館）となっておりますので、（20年で）5,130（館減っていること）となっております。

小学校、中学校に比べまして、公民館の方が実は減っているということがわかるわけです。

それでは、次のスライドになりますが、この学校規模適正化の委員会ですが、学校統廃合をどういった視野で議論していくことが求められるだろうかと思いつながら、前回も出席をさせていただいておりました。

最初に政策経営部の方から、前回お話をいただいて、私はあれこれ質問させていただいたんですけども、人口が減りますよというような話だけではですね、もう学校統廃合は当たり前の話になるわけです。

そしてそれは、みなさんも思い出していただければと思いますけれども、人口減少の白い地域（5～14歳人口が10人未満の地域）というのが、伊万里市はものすごく広がっていくんですね。

学校統廃合の話を、人口減少だけの話でしますと、もう伊万里市の全体が持ちこたえられなくなっているというお話を、政策経営部の方がおっしゃったように私が聞こえたものですから、そういった観点からだけではいかなものなのでしょうかという話をしたわけです。

もう一つは、財政による、要するに人口が減少しますと、税金も減っていきますので、行政サービスが低下をします。それと全国で、学校を聖域とせず、公共施設というものを縮小していきましょうという議論を、今財務省などがやっているわけですね。その財務省の話というのは、「老朽化したものをもう建替えるな」と言っているわけではなくて、もし建替えるのであれば長寿化、つまり、これまで耐用年数が25年から35年だったものを、50年から100年持つようなものにしていきなさいと言っているということを、議論を幅を持たせるといった意味でお話をさせていただいたところです。

そういう話をしたというのは、実は学校の統廃合というのは学校の問題なんだろうか、子どもの問題なんだろうかと考えてみた時に、それだけではないよねと思うからなんですね。

つまり、地域の再生産の機能と言ったほうがいいでしょうか。学校がその地域から無くなるということは、若い世代はそこにはもう住まないと言っているようなものですね。そうしますと、その地域というのは限界集落化していかざるを得ないわけです。50年経ったときには、人が住むことができなくなってしまうということと等しいなと思うわけですね。

そういうことがわかっていて、人口減少の話だけで持っていくと、それは間違った方向に行くのではないかと思っていて、学校の統廃合の議論を一方でするのであれば、もう一方では、そこに住む人たちが生活を維持していくことができるというような議論を全体ですていくことが求められているのではないだろうかと思っているからです。そこに住んでいる方々の気持ちに寄り添うということだけではなくて、そこでいつまで生活を維持していくことができるかという問題として捉えていかなければならないということです。

その一方では、前回中心部の方からご意見がありました。クラスが、生徒数が増えてきているというお話がありました。

これは伊万里市だけではなくてですね、全国的に見た時に、県都は学校数があまり減少しないんですね。何故かという、周辺部から子どもたちが中心部に流れ込んでくるという現象がみられるからなんですね。

それで、こちら（伊万里市）の場合にはマンションではなく戸建て住宅が、伊万里小学校のあたりに道が通ってききましたので、ずいぶん宅地開発が進んでいるかなと思いますけれども、ご旅行に行かれた時に他の自治体などを見ていただきますと、駅前にマンションが建っております。

駅前にマンションが連立するようなところもあってですね、どんな方が住んでおられるのかなと思いますと、一つは高齢者夫婦、つまり近くに病院がないとか買い物に行くことができないので、駅前だったらスーパーもあるだろう、病院もあるだろうということで集まってこられる方々。もう一つは、子育て世代で、これまで小学校があったけれども統廃合があって、また自分も街中に仕事場があるので、それに合わせて引っ越してきた方もおられるわけですね。

こういった居住の移り変わりのことをシティコンパクト化とかコンパクトシティ化というわけですが、一方では限界集落の生活維持をどうしていくのか、もう一方では市の中心部で子どもたちや人口が増えていく問題に対応していくことができるかという、その両方を見ながら学校統廃合の議論をしていかなければならないと思っております。

二つ目の人口減少と子どもの減少ですね。

人口の減少につきましては、厚生労働省の社会保障人口問題研究所というところが、例えば2030年、2040年にはあなたの町はこういうふうになっていきますよということを発表しております。

それをご覧になった方もいらっしゃるだろうと思いますが、この人口問題研究所の数というのは、基準は何かというと、このままの状態、20歳から39歳までの女性が少なくなっていく割合が高い地域というのは、人口が減少していきますよという数を出しているわけです。これは当たり前といえば当たり前ですが、私が九州の自治体を歩いてみて感じるのは、研究機関が出す数のように推移していくかということ、必ずしもそうではないと思うんですね。

人が居住を変えるという時に、子どもさんを学校に通わせておられる方というのは、(全体に対して)少数派なんですね。

引っ越しを決意するという時には、ガソリンスタンドが無くなっていくとか、スーパーが無くなっていく、そして最後まで残っているだろうと思っていた郵便局が無くなっていくとか、こういうことが繋がっていくと、人口減少は進んでいくわけです。

学校の統廃合などの問題に直面しているところにヒアリングをしてみますと、地域の方は、言葉を選ばずに言いますと、こういった表現をされるかと言いますと、「私の目の黒いうちは統廃合は許さない」というご意見の方が結構いらっしゃいます。

では保護者さんは何と言っているかと言いますと、「子どもが部活をしたいと言っている」、「少人数だと子どもの社会性が身に付かないのではないかな、また、このことが学力低下にも繋がるのではないかな」、「学力の低下が中学

に上がった際のいじめの原因になるのではないか」というような不安を持っておられる方が多いです。

ですから、学校統廃合では、地域の意向と保護者の意向というのは、だいぶずれが見られます。

先ほどのご報告の内容を見てみますと、保護者さんは半々、子どもたちは子どもたちなりにしっかり考えているなという数がでておりましたけれども、それでも部活をしたいと思っている子どもは少なくありません。

私は佐賀市に住んでおりますけれども、旧富士町で、富士小学校、富士中学校が統合され、小中一貫校になったわけですが、中学校の先生方は、「中学校に進学してくる割合が少なくなってきた」と（話される）。それはなぜかと言いますと、やはり野球部やバレー部に入りたいという子たちが、車であと10分、15分くらい行くと、大和中学校というところがありますので、そこに入学をしたがると。また、それを止める手立てはないということを言われます。

「問題の複雑さ」というふうに書きましたのは、これは、「目の黒いうちは」という感情的な話ではなくて、そういう気持ちも大事かとは思いますが、学校の統廃合はもっと別の視点で見なければならぬと思っております。この間水害がありまして、滝野は山の上ですのでそんな心配はないのかもしれませんが、例えば学校は防災拠点になっているケースが多いです。そうすると、学校を統廃合した後、防災拠点をどう作っていくことができるか。そして、集まって話し合う場所、学校がなければ公民館でという話になるわけですね。

ところが、最初に公民館の数を告示しましたのは、小学校よりも早く公民館の方がなくなっていっているというところもないわけではないんですね。そうすると防災拠点ですとか、集会拠点、地域行事の拠点であるとかを何らかの形で残してあげないと、そこで暮らしていらっしゃる方の安心安全というのが担保できなくなると思っております。

それから四番目のところで、「学校や教育は良くなるのだろうか」と書いております。

統廃合の話題になった時に、どうしても学校規模の話になりますので、「学校は何クラスあって、何人がいいだろう」という話になりがちなんです。

これは行政の立場からするとやむを得ないと思うところもあります。

統廃合されるところで、小学生が1人というところもありましたけれども、そこにマスコミが入って、子どもにインタビューして、「お友達はあるの？」と素朴に新聞社が聞いたところ、子どもが「うん、1人。先生。」と言ったという話を聞いて、小規模もいいけれどもそれには限界があると感じざるを得なかったわけです。

そうすると、子どもたちにとって最適な環境とは何なのかと。

規模の問題も確かにあるんですけれども、統廃合するならどのように良い学校を造るのかと。

そこで、「統合しただけのことはあるね」と言われるような学校教育がなされていくのだろうかというところまで議論する必要があるのではないかと、単にスケールメリットがあるということだけでは難しいのではないかと思うわけです。

多久市で広域合併をされたときに、そのセールスポイントというのは、小中一貫校で9年間のカリキュラムがあるということだったわけです。

表向きは中1ギャップをなくすという話になるんですが、これは教育委員会をはじめ、学校をどう良くしていくのかということを中心に据えていく必要があるのではないかと思います。

最後のスライドになります。

「今後の方向性を議論するために」と書いてありますが、学校統廃合は学校だけの問題ではないと思っているものですから、伊万里市さんは、今後の伊万里市のデザインをどういうふうを描いておられるのかなと。

コンパクトシティのような方向に行かれるのか、多重分散のようなまちづくり、都市づくりをしていこうとされるのかどうか。

コンパクト化を目指すというのであれば、それはスケールメリットを出すというのも一つの考え方だろうと思います。

ところが多重分散を目指すということであれば、これは他の自治体で出し

たアイデアなんですけれども、2町、(それぞれ) 1町1小学校1中学校だったところを、(合併し) 1町で一つの小中一貫校にされたところがありました。

両町の住民から異論が出ないように、旧町の境目に造ったものですから、非常に寂しいところに造られて、誰からも愛されにくいと言いましょうか、そういう学校も見たことがあります。

ですから、多重分散型でスクールバスを回すということであれば、一挙に統廃合を進めるというのも一つの手ですし、学年を分けて、社会性を身に付けさせるために、○学年と○学年だけ統合していくというようなやり方もあるでしょうし、少数ですけれども、必要な時にスクールバスを回して、ある時間だけは統合教育をしていこうと考えておられる自治体もございました。ただこれは手間暇がかかるものですから、あまり広がっていかなかったと思います。

私は、極端ですが、スクールバスを回すんだったら、大規模校の生徒を自然環境の良い小規模校の方に乗せて行って教育したらどうかという話をしたことがありますけれども、これはやはり物理的に無理ですよ。

数少ない選択肢の中から、どういった教育の形態が伊万里の子どもたちにとって最適なのかということを考えていかなければならないと思います。

「地域社会の持続性」と書いております。

地域計画はあるのか、次世代育成策はあるのかと書いておりますのは、先ほど申し上げましたように、学校が無くなるということは、そこに住む若い世代はいなくなるわけですよ。そうすると、自然淘汰を待つということになってしまうんですけれども、私は、将来的に復活するというような種を蒔いておくということも必要ではないだろうか。学校を復活させるというよりは、その集落自体の持続性というものを考えておく必要があるんじゃないだろうか。

これは、伊万里市の方でマスタープランをお作りになるとすると、それぞれの地区計画、地域計画みたいなものも丁寧に作っておく必要があると思います。

そして、学校や公民館を含めて、多面的な検討が必要だと思います。

それは、医療や買い物や防災、まちづくり、仕事の創出なども含めて、学校問題は考えていかなければならないかと思っています。

やや話を大きくさせていただきますと、伊万里市のマスタープランのお手伝いをした時に、私はこういう提案をさせていただきました。

全国の自治体を見た時に、人口減少と向き合っている自治体があるんですよね。そういった中で、人口を増やすには若い世代を定着させると考えておられる市長さんがおられて、その方々は高校とのタイアップを一生懸命やられるんですね。

高校を卒業した後ですね、地元就職をするという選択肢を増やしていく。もしくは、例えば伊万里市に即して考えると、福岡市に出ていく生徒は少なからずいるだろうと思います。大学や専門学校にいる間は福岡で生活してもいいだろう、けれどもやはり伊万里に戻ってきたいと思えるようなまちづくりをしていく必要があるだろうと。

けれどもその時には、戻ってきたいと思う気持ち、愛着心を育てておかなければならない。多分義務教育の先生方はそういうことを一生懸命やられるんですね。

けれども高校ではそういう部分が非常に弱いわけです。

ところがUターンしてきた若者に調査をしてみると、「高校時代楽しかった」と言った子どもたちが地元に戻ってくるそうです。それが何故かというところまではわからないんですが、多感な時期に「大切にされた」、「過ごしやすいかった」と思っていた子どもたちはUターン、Jターンする可能性が高いといわれているわけです。

ですから、学校の問題というのは義務制の問題だけのように思いますが、伊万里市は市内に県立高校、私立高校を抱えておられる、県内の他の自治体にはない特徴を持っておられるわけです。

そうすると、高校生まで、伊万里でのびのびと豊かに育てていくことができるかということを多面的に考えていただいた方が良いかと思っています。

そのことが、学校でもそうですし、学校外の教育、教育行政の中で議論し

	<p>なければならぬ重要なポイントというのは、どういった学校を造って いて、子どもたちが小中高の12年間の間に育つことができるか、そして 将来伊万里に戻ってきたいという子どもたちを育て上げることができるか どうかということに係っていると思います。</p> <p>以上でございます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今お話を聞いたわけですがけれども、委員の方からご意見やご質問等はござ いませんでしょうか。</p>
西田委員	<p>小中一貫校滝野校の評議員の西田でございます。</p> <p>今上野先生の方から、合併前公民館の数が19,000館から5,130 館ほど減少したとありましたけれども、これは地区の公民館も含めてとい うことでよろしいですか。</p>
上野委員	いえ、違います。
西田委員	町の？
上野委員	行政のです。公立のです。
西田委員	<p>そうですか。その下には末端の公民館を各地区持っていますよね。</p> <p>やっぱりこれだけの数の公民館が減ったということはですよ、おそらく地 域が崩壊していると思うんですね。そういった中で学校も必然的に減って いくと思うんですよ。</p> <p>地域には子供会とかいろんな団体がございます。それも私どもの地区では 維持していけない状態にございます。</p> <p>そういう中でですよ、これが町（の公民館の数）ということにはびっくり しました。</p>
会長	<p>他にございませんでしょうか。</p> <p>（意見なし）</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、次へ進みたいと思います。</p> <p>四番の諮問事項についての協議ということで、①、②二つあるわけですが けれども、二つ協議する時間も十分ありませんので、今日は①について協議</p>



	<p>を深めてまいりたいと思っております。</p> <p>今日は、グループ討議の準備をしていただいておりますので、それぞれのグループで、今お話を聞いた内容から、あるいは滝野校のアンケート等の調査から、あるいはいろんな団体からの意見をもとにご協議していただきたらと思います。</p> <p>4つのグループを作っておりますけれども、これより①付帯事項となっている滝野中学校と国見中学校の統合問題に絞って協議をしていただきたらと思います。</p> <p>誠に勝手に恐縮ですけれども、司会進行の方をそれぞれのグループの委員名簿の番号の一番若い人で、すいませんけれども司会進行をしていただいて、グループでの話し合いの結果を報告していただきますけれども、グループの方で選任いただいて、それぞれ話し合いを発表していただきたらと思います。</p> <p>そういう進め方でよろしいでしょうか。</p> <p>(異論なし)</p> <p>なかなか全体の前で意見を述べるということも大変だと思いますので、グループの中で意見を頂戴したいと思います。</p> <p>20分程度協議をしていただいて、最後の10分くらいを発表としたいと思います。</p> <p>それではよろしく願いいたします。</p>
	<p>グループ討議〈20分間〉</p>
<p>会長</p>	<p>話の途中で恐縮ですけれども、討議を閉めたいと思います。</p> <p>それでは、グループ討議で出たことについて、全ての班の代表の方から発表をお願いします。</p> <p>では、まずこのグループ（グループ1）からお願いします。</p>

グループ1	<p>失礼します。</p> <p>私どものグループの意見でございますが、統合に関して、それと存続に関する判断は、この時点ではしづらいというのが結論でございます。</p> <p>統合するにしても、存続するにしてもそれぞれのメリットがあるという意見。</p> <p>それと第1の議案から始まったんですが、第2議案の方から始めてもいいんじゃないかと。もっとマクロ的な視点を持って、伊万里市をコンパクト化したいのか、分散化したいのかというところから議論を始めてもいいんじゃないかという意見もございました。</p> <p>小さなところがじゃなくて、全体的なところから意見を集約していくというところ。</p> <p>この件については東陵中や青嶺中など統合化が済んでいるので、次は滝野だということからの視点だったんだらうということにも落ち着きました。</p> <p>ただ、もっとマクロ的な意見というところが多かったと思います。</p> <p>それと、統合すればバスは必要だろうと。バスに関しましては、最初から乗った子というのは1時間もかかるわけですね。着いたところにはぐったりなっている子、あるいは、統合してバスを出しても、時間が経つとバスに乗らない子も出てくると。そういった場合にどうするのかというところも考えなければならぬんじゃないかという意見もありました。</p> <p>それと、不登校に関して小規模校の特性を生かすということも必要じゃないかと。</p> <p>小学校だけでも残す、あるいは分校として低学年だけ残すという視点もあってもいいのではという意見もありました。</p> <p>以上でございます。</p>
会長	はい、それでは後ろのグループ（グループ2）お願いします。

グループ 2	<p>はい、先ほどの滝野の教育を考える会の回答の中で、アンケートの回収率が少ないというところで、子どもがいない家庭には、この問題はあまり関係ないのかなということ、このままいって小中一貫校が成り立つのかという意見が出ました。</p> <p>また、今滝野の話をしてはいますが、今後また次の学校という話が出るんだったら、この際、伊万里市の方が今後の方向性を示していただきたいと。3回目の会議では、市としてはこういうことを望んでいるという全体的な方向性を示していただきたいということです。</p> <p>あと、地域性については今の時代にそぐわないのではないかという意見でした。</p>
会長	はい、次のグループ（グループ 3）をお願いします。
グループ 3	<p>このグループは滝野の方が 2 人おまして、国見中学校が 1 人、あとは統合済みの東陵、青嶺、南波多ということでメンバー的にはこの 6 名で話を行いました。</p> <p>青嶺中の校区の人はですね、やはり統合して 20 年経つけれども、当時は保護者の意見が優先されたということで統合をしてよかったと思うという意見が出ましたし、南波多の場合はですね、地域に学校を残したいという意見が多くて、現状の小中一貫校が残ったような状況だということです。</p> <p>また、東陵中の方はですね、統合してよかったということですが、現に 30 年近く経ってですね、1 クラスになっているというような話が出てきております。</p> <p>やはり、統合・合併についてですね、みなさんに率直にどう思われますかということ聞いたところですね、合併の方向で進んだ方が好ましいのではないだろうかというような、先輩方の意見でございます。</p> <p>また、自宅から近い学校に行けるようにするのも一つの選択肢ではないかという意見も出ております。</p> <p>以上です。</p>

会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ここのグループ（グループ4）お願いします。</p>
グループ4	<p>滝野の方からアンケートを示していただきましたけれども、これにはやはり地域の方の想いが出ているけれども、この協議会としてですね、考えることは、アンケートだけに頼るのではなく、総合的に考えていくべきではないかという意見がありました。</p> <p>そういう意見の中にも、地元の意見も大事にしてほしいという意見もあります。</p> <p>それから、アンケートは子どもたちの現在の状況だけれども、この子どもたちが卒業した後、高校または社会人になった後、滝野のこういう小規模校で学習したことがどうだったかということも本当は聞いた方がいいのではないかなという意見もありました。</p> <p>東山代町の状況としては、スクールバスその他ですね、条件はいつでも整っているのではないかなということや、それから、もし統合になれば、改築などと一緒に合わせて考えてほしいと、伊万里市の方へいろいろお願いすることもあろうということでした。</p> <p>最後に、この答申というのは今回だけじゃなくて何回もやっている、そういう経過も考えてですね、またこれが地元の判断ということで延び延びになっていいのかなどうかもここら辺でしっかり考えるべきではないかなというようにことでした。</p> <p>以上です。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>滝野校の統合問題について、様々な角度から貴重なご意見をいただきました。</p> <p>この協議会の運営要綱の中に、「協議に当たってはあらかじめ一定期間を予定し、能率的に進める」とあります。</p> <p>なかなかこれを2年も3年もかかってですね、協議を進めるということはいろんなことで支障が出てくるわけです。</p> <p>先ほどいろいろご意見いただいた中に、市の方向性がわからないというよ</p>

	うな意見もありましたので、いかがでしょうか、教育委員会としての意見は。
事務局 (学校教育課長)	教育委員会としての意見となりますと、今日みなさまからいただいた意見等含めて、教育長が今日不在ですので、お話預らせていただいて次回3回目の折に、教育委員会としてという考えが示せるかどうかわかりませんが、検討はさせていただきたいと思えます。
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>先ほどのいろいろな意見の中で、①の統合問題の方から入ったわけですが、②（今後の伊万里市立学校の在り方）からすべきではないかなという意見や、伊万里市としての全体の考え方、構想はどうなっているのかというご意見もございましたので、非常にその辺が私としても気になるところでございます。</p> <p>その辺を解決しないとなかなか先に進みにくいところもありますけれども、現時点では小中一貫校が本当に成り立つのかとか、あるいは統合が好ましいのではないかという意見もあっております。</p> <p>できたらある程度の方向性を今日決めたいと思っていたんですけども、いかがでしょうか。次の1月まで延ばしますか。</p> <p>非常に判断しづらいとかいうご意見もありましたのでですね、非常に気にしているところです。</p>
松本委員	（統合が）絶対ダメという反対意見がないから、統合する方向で進んでもよくないですか。
会長	そうですね。いろんな意見があってですね、私も気になるところはあるわけですが、絶対反対ということじゃなくて、その方向（統合）で進めてもいいんじゃないかというご意見がありましたけれども、そのような感じでよろしいでしょうか。
西委員	<p>オフレコでも聞こえていると思うんですけども、やっぱり行政、教育委員会の方に是非というのが、この会の、今グループ討議した中でもおおよその意見は近い将来の統廃合というのがあって。</p> <p>それとその前の上野先生のお話にもあったように、方向性を議論するため</p>

	<p>の多面的な検討をする中でもですよ、伊万里市の方向性はコンパクト化なのか、多重分散型でスクールバスを回すのか、近い将来統廃合した際に子どもたちが（通学距離が）遠くなるころの、安全安心の観点からスクールバスをといてるところで上手くリンクできればと思うので、是非、ここでまとまっている意見を、今日は教育長さん不在ということですが、じゃあそうした場合に具体的にどう統廃合の後の道をフォローできるスクールバスの運用面を検討していただきたい。</p> <p>やっぱり「行政が行政が」という声が聞こえてきましたけど、そこ（行政）と私たちの検討しているところがリンクするのかなというところが私的にも懐疑的というかどうかなと思うので。</p> <p>以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にございませんでしょうか。</p> <p>（意見なし）</p> <p>それでは、全体的な流れとしては、統合するというような感じで、次回市としてどういうふうに将来像を描いてあるのかということもお話していただくとうかがいたしたいと思います。</p> <p>統合するとすれば、どのような子どもの交通手段を考えてあるのかということも併せてご意見いただくということによろしいでしょうか。</p> <p>（賛同する声）</p> <p>それでは五番目のその他ということで、次回開催予定は令和2年1月24日14時から大会議室で開催ということで。</p> <p>あと、教育委員会の方から。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>多くのご意見をいただきましてありがとうございました。</p> <p>今日いただいた意見をもとにですね、教育委員会それと関係部局とも話を詰めて第3回に備えたいと思います。</p> <p>事務局の方からお願いになりますけれども、まず、今日お配りをしております滝野校の教育を考える会のアンケートにつきまして、まだ結果について滝野校の保護者の方、区民の方々へは示しておりません。</p>

	<p>つまり、この数字が独り歩きしてしまいますと、誤解や憶測を招くことになりまますので、この後回収をさせていただきたいと思ひます。</p> <p>学校の統廃合につきましては、大変デリケートな問題であります。</p> <p>委員のみなさまにおかれましても、今日出たご意見が、あたかも今後そういうふう（統合する方向）に決定していくということではございません。</p> <p>今後検討を繰り返していくところもあるかと思ひますので、発言等についてはご配慮お願いしたいと思ひますし、報道関係の方々もよろしくお願ひいたします。</p> <p>第3回目につきましては、令和2年1月24日金曜日14時からこの会場で予定しております。</p> <p>どうぞよろしくお願ひします。</p>
会長	他にご意見ございませんでしょうか。
森委員	今から先がですね、非常に大きいテーマになるんですけど、進め方について何かお考えがあるのでしょうか。
事務局 (学校教育課長)	<p>進め方というか今後のスケジュールになるかと思ひますが、少なくとも第3回目には、先ほどの滝野校の問題については結論を出し、ある一定の方向性を明らかにしていきたいと思ひております。</p> <p>年度変わりました来年度、2回を予定しておりますが、その中で全市的な視点で学校教育について協議をするとかというふうに考えております。</p> <p>場合によっては2回で済まなければ3回目までということで予定しております。</p>
森委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>スケジュール的なことではなくてですね、議事の中身についてだったんですけども、よろしいです。</p> <p>提案なんですけども、(委員)お一人おひとりにレポートなりアンケートを取って、事前に意見をまとめておいた上で、次回なりその次なりにでも進めていけば、よりスムーズにいくんじゃないかと思ひましたので、具体的な方法についてはお任せしますが、漠然と伊万里市全体についてどうしましょうかというのを今度来た時に投げかけられてもなかなか。</p>

	結局自分のところの実情というのをもち得ていないので、その辺の工夫がほしいなと思います。
会長	②の方が非常に範囲が広いというところで、実際どういったところをどのように議論をしていくのかわかりづらい面もあるんじゃないかならうかと思います。 私も、今後伊万里市の教育をどうしますかと問われてもなかなか難しい感じもしますが、公民館とか学校問題、いろいろ含んでいるんだろうと思いますので、協議内容が事前にわかるといいのではと思ったりもしています。 他にございませんでしょうか。
石井委員	アンケートは回収ということですが、中身の公表は無理でしょうけど、人数の公表はしていいですか。
事務局 (学校教育課長)	人数の公表についても、まだ(滝野地区の)区民の方に示しておりません。 ですから、この数だけを公表されるとどれが多くでどれが少ないという話になると思います。 それが滝野の総意だと捉えられると困ると考えておりますので、この後回収させていただきたいと考えております。
石井委員	滝野校がアンケート調査をしたということは東山代区長会まで来ているわけですがけれども、これは次の区長会で聞かれると思います。 内容は聞かれないにしても、どのくらいの回答があったのかとか。 それもダメですね。
事務局 (学校教育課長)	区民の方への公表が終わったあとだと公表は問題ないかと思うんです。 ですから、区民の方への早めの公表をこちらも検討したいと思います。 滝野校の坂本校長先生とも相談をしながらですね。
会長	そういうことをご理解いただけましたでしょうか。 他にございませんでしょうか。 ないようでしたら、これを持ちまして第2回の伊万里市立学校規模適正化協議会を閉会します。 ご協力ありがとうございました。
	《閉会》





